

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要			
建物名称	福岡県公営住宅 吉田団地第5,6工区	BEE	1.5
		BEEランク	B+
			★★★

2 重点項目への取組み度			
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.3 / 5		ふつう
2 地球温暖化対策の推進	3.4 / 5		ふつう
3 豊かな自然環境の確保	2.0 / 5		がんばろう:
4 高齢社会への対応	4.0 / 5		よい
[※] 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4点以上 ふつう 3点以上 がんばろう 3点未満	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア			
使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版		使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.4.0)	
1 循環型社会への貢献			スコア平均 3.4
リサイクルに関する配慮	長寿命化に関する配慮		
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3.5	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 3.8
		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 2.8
<自由記述>		<自由記述>	
2 地球温暖化対策の推進			スコア平均 3.5
省エネ・省資源に関する配慮	節水に関する配慮		
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.9	LR2/ 1.1 節水	スコア 3
		<自由記述>	
3 豊かな自然環境の確保			スコア平均 2.0
生態系保全に関する配慮	緑化に関する配慮		
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 2
		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 3
<自由記述>		<自由記述>	
4 高齢社会への対応		スコア平均	4.0
バリアフリーに関する配慮	主な指標		
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 4	建物の外皮性能 (BPI評価)	
		非住宅: BPI値、住宅: 省エネ等級	等級4
<自由記述>		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価)	
		非住宅: BEI値、住宅: -	0.77
		外構緑化指数	11%
		建物緑化指数	0%

: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	福岡県公営住宅 吉田団地第5,6工区	階数	地上7F
建設地	福岡県北九州市小倉南区上吉田三丁	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域	平均居住人員	175 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年3月 予定	評価の実施日	2020年9月3日
敷地面積	5,850 m ²	作成者	(株)テクノエ管
建築面積	796 m ²	確認日	2020年9月10日
延床面積	4,712 m ²	確認者	高崎 徳彦

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 75%
③上記+②以外の 75%
④上記+ 75%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 4
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境(敷地内): 2
LR1 エネルギー: 4
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.2

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合 外周道路との高低差を考慮した建物配置、十分な駐車・駐輪台数の確保等、公営住宅の建て替えて、周辺環境に与える影響に配慮した計画としています。		その他 スラブ合板型枠に代わり、P C板(合成スラブ)型枠を使用し、合板の使用量を低減。
Q1 室内環境 省エネルギー対策等級4を確保。内装材にF☆☆☆☆の建材を使用と共にVOC対策に取り組む。	Q2 サービス性能 躯体の劣化対策等級3の確保による、建物の耐用年数の向上に努める。高齢者等の配慮の為、対策等級3を確保。住戸内給水、給湯管にさや管ヘッダー方式を採用し、更	Q3 室外環境(敷地内) 空地率80%以上を確保し、風の通りを確保。アスファルト舗装に透水性舗装を施し、雨水排水の低減に配慮。
LR1 エネルギー 断熱等性能等級4、BEE=0.77	LR2 資源・マテリアル リサイクル資材を3品目以上用いている。有害物質を含まない建材種別が4つ以上ある。	LR3 敷地外環境 建物配置、隣棟間隔を考慮し日照阻害の抑制、風害の抑制に配慮。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
福岡県公営住宅 吉田団地第5.6工区

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄					全体		
		評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質						2.9		
Q1 室内環境			0.40			3.6		
1 音環境		-	0.15	2.6	1.00	2.6		
1.1 室内騒音レベル	-	-	-	3.0	0.50			
1.2 遮音	-	-	-	2.2	0.50			
1 開口部遮音性能	-	-	-	1.0	0.30			
2 界壁遮音性能	-	-	-	3.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	-	-	2.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	-	-	3.0	0.20			
1.3 吸音	-	-	-	-	-			
2 温熱環境		-	0.35	4.0	1.00	4.0		
2.1 室温制御	-	-	-	4.0	1.00			
1 室温	-	-	-	-	-			
2 外皮性能	断熱性能等級4	-	-	4.0	1.00			
3 ゾーン別制御性	-	3.0	-	-	-			
2.2 湿度制御	-	-	-	-	-			
2.3 空調方式	-	-	-	-	-			
3 光・視環境		2.2	0.25	3.7	1.00	3.6		
3.1 昼光利用	-	-	-	3.5	0.50			
1 昼光率	DK(3DK) 1.56%	-	-	4.0	0.50			
2 方位別開口	-	-	-	3.0	0.30			
3 昼光利用設備	-	-	-	3.0	0.20			
3.2 グレア対策	-	-	-	4.0	0.50			
1 昼光制御	カーテン、庇	-	-	4.0	1.00			
3.3 照度	-	1.0	0.38	-	-			
3.4 照明制御	-	3.0	0.63	-	-			
4 空気質環境		-	0.25	3.7	1.00	3.7		
4.1 発生源対策	-	-	-	4.0	0.63			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆を全面的に採用	-	-	4.0	1.00			
4.2 換気	-	-	-	3.3	0.38			
1 換気量	シックハウス対策を満たす換気量の1.34倍の換気量	-	-	4.0	0.33			
2 自然換気性能	-	-	-	3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮	-	-	-	3.0	0.33			
4.3 運用管理	-	-	-	-	-			
1 CO ₂ の監視	-	-	-	-	-			
2 喫煙の制御	-	-	-	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	2.6		
1 機能性		2.8	0.40	2.0	1.00	2.0		
1.1 機能性・使いやすさ	-	4.0	0.40	2.0	0.60			
1 広さ・収納性	-	-	-	-	-			
2 高度情報通信設備対応	-	3.0	-	2.0	1.00			
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の最低限のレベルを満たしている。	4.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性	-	1.0	0.30	2.0	0.40			
1 広さ感・景観	-	-	-	3.0	0.50			
2 リフレッシュスペース	-	-	-	-	-			
3 内装計画	-	1.0	1.00	1.0	0.50			
1.3 維持管理	-	3.0	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	-	3.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保	-	3.0	0.50	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.2	0.30	-	-	3.2		
2.1 耐震・免震・制震・制振	-	3.0	0.50	-	-			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80	-	-			
2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数	-	3.8	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数	劣化対策等級3 水セメント比50%以下 かぶり厚+10mm	5.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	-	3.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管及び排水管にBを使用。Eは不使用。	5.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-			
2.4 信頼性	-	2.8	0.20	-	-			
1 空調・換気設備	-	3.0	0.20	-	-			
2 給排水・衛生設備	-	3.0	0.20	-	-			
3 電気設備	-	3.0	0.20	-	-			
4 機械・配管支持方法	-	3.0	0.20	-	-			
5 通信・情報設備	-	2.0	0.20	-	-			

3 対応性・更新性			3.0	0.30	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり			-	-	2.6	0.50	
1 階高のゆとり	-		3.0	-	3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ	-		3.0	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり	-		3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性	-		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性	-		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保	-		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出	-		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	-		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	-		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制	断熱性能等級4、UA値0.77		4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用	-		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	BEI=0.77		5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング	-		3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-		3.0	-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	-		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	-		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水	-		3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	-		3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無	-		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減	-		3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	内装パネル材:合板、路盤材:再生骨材、床下地:パーティクルボード		5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	分別が容易:躯体+仕上(内装パネル) 断熱はFP板使用		4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.20	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用	接着剤、塗料、内装材に有害物質を含まないものを使用		5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1 消火剤	-		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0 GWP=3		4.0	1.00	-	-	
3 冷媒	-		-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮	CO2排出率:75%		3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止	-		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	-		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	-		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音	-		3.0	1.00	-	-	
2 振動	-		-	-	-	-	
3 悪臭	-		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制	-		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	-		3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制	-		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策項目を一部満たしている。広告物照明無し。		4.0	0.70	-	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-		3.0	0.30	-	-	